



報道関係各位

2022年12月9日

地域社会と連携しながら継続的に環境美化に取り組む全国の小・中学校を表彰

「第23回 環境美化教育優良校等表彰事業」 最優秀校4校ほか決定

【最優秀校】

文部科学大臣賞	秋田県	大仙市立 ^{おおまがりみなみ} 大曲南中学校
農林水産大臣賞	青森県	蓬田村立 ^{よもぎた} 蓬田 ^{よもぎた} 中学校
環境大臣賞	埼玉県	川口市立 ^{あんぎょう} 安行小学校
協会会長賞	鹿児島県	与論町立 ^{ちやばな} 茶花小学校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：那須 俊一）では、本年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校等の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校19校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県より推薦された中から審査委員会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」にそれぞれ決定いたしました。なお、大臣等表彰は小学校と中学校は、部門を区分せずに審査、表彰しております。

今回の最優秀校の中でもとりわけ特色のある活動を行っているのが、児童が中心となって、牛乳パックなどのリサイクルに積極的に取り組む埼玉県川口市立安行小学校です。集めた牛乳パックや古紙は、近隣の社会福祉施設に入所する人たちが2週間に1回来校して回収し、トイレットペーパーと交換しています。また、リサイクルをもっと楽しく取り組めるように、活動に参加すると校内環境通貨が発行されて、安行小まつりの中の児童が担当するブース「エコマーケット」で使えるしゅきを設けました。エコマーケットでは、地域住民の協力や指導の下で育てているオタマジャクシやカイコ、ゴーヤの種、児童手づくりのエコグッズなどさまざまなものが並びます。リサイクルが福祉教育にもつながり、自然の中の大きな循環の輪に広がっていることが高く評価されました。

最優秀校に決定した他の3校においても、地域の環境を守るために自分たちができることは何かを考え、児童・生徒が先頭に立って海や川の清掃に励み、地場産業の体験学習を通じて地域の一員としての自覚を養う姿勢が際立っていました。





公益社団法人食品容器環境美化協会（略称・食環協）

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、地域行事や交流活動が中止になる中、規模を縮小しつつも工夫を凝らして美化活動を継続しているのも、受賞校の特徴です。

表彰式は2023年1月27日（金）、浅草の下町かいわいや東京スカイツリーを一望する「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて最優秀校4校を招いて開催致します。

式典では、各受賞校の活動の様子をインタビュー映像やスライドで紹介しながら、生き生きと取り組む児童・生徒の前向きな姿や教師の思い、サポートする地域住民の熱意をお伝えしてまいります。



公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来49年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めてまいりました。日本の環境が美しくなることを目的として、「環境教育の支援」、「ポイ捨て防止の啓発」、ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

「環境美化教育優良校等の表彰」は、「環境美化教育の促進」および「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度から開始し、本年度が23回目となります。

この間、地域の環境美化やリサイクル推進に積極的に取り組む小・中学校を表彰し、これら各校の児童・生徒の活動を励ますとともに、その活動を広く紹介してきました。同時に、環境美化教育の全国における活性化にも寄与してまいりました。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年度も全国の都道府県から、独創的な環境美化教育に熱心に取り組み、校内だけでなく地域社会と連携して環境美化に大きく貢献する活動の実践に努めている小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員会において厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、19校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■本年度の各都道府県からの推薦状況

第23回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が1校を推薦する方式

	合計
推薦があった都道府県数	29
推薦校数	29

■本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最優秀校	4
優秀校	6
優良校	19





公益社団法人食品容器環境美化協会（略称・食環協）

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

最優秀校に決定した4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要（詳細はP7以降参照）

環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	<p>秋田県 <small>おおまがりみなみ</small> 大仙市立大曲南中学校</p> <p>20年以上にわたり、アルミ缶などの回収活動や、校区にある親水公園のクリーンアップ、小・中合同ごみ拾い活動に取り組んでいる。いずれも住民と連携しているのが特徴で、中学生が美化活動に取り組む姿は地域全体に好影響をもたらし、活性化にも直結。高齢化が加速するエリアにあって、生徒の力は大変大きく、住民の期待を一身に集めている。そうした姿勢や活動がベースになり、同校では、積極的にESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた教育を展開。中学校で県内唯一のユネスコスクールとして「考え、行動する環境教育」を掲げて、各教科とのつながりを示したESDカレンダーを作成し、学年ごとに「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマにした体験活動を実践している。特に食育では、給食残さを活用した野菜栽培や、近隣スーパーの食品ロス削減を呼びかけながら、地域の主産業である農業への理解を深めるなど、生徒の意識変容や行動変容を促す教育が着実に根付いている。</p>
農林水産大臣賞	<p>青森県 <small>よもぎた よもぎた</small> 蓬田村立蓬田中学校</p> <p>水田や畑に囲まれ、蓬田村漁港の近くに位置する同校では、恵まれた環境を生かした体験活動を行っている。2008年に開始した「玉松台・玉松海水浴場清掃活動」は、近隣の蓬田小学校をはじめ、老人クラブや婦人会など団体と協力しながら実施。地域の一員として熱心に取り組む生徒たちの様子は、住民に高く評価されている。そうした活動を契機に2014年に始まった「漁業体験学習」では、地域の基幹産業の一つである養殖ホタテの水揚げ体験を通して、水資源管理の大切さを学んでいる。蓬田村漁業協同組合の協力で、沖合の養殖場やホタテの選別場を見学、ホタテの調理などを通して、生徒はおいしいホタテを育てる漁業者の努力や環境保全の重要性を体感。磨かれた美化意識は日常でも発揮されており、校外行事や部活動大会などでの訪問先では、ごみを残さないよう気を配る様子が見受けられるなど、大切な資源環境を地域の財産として将来にわたって守り抜こうという態度が培われている。</p>
環境大臣賞	<p>埼玉県 <small>あんぎょう</small> 川口市立安行小学校</p> <p>児童を中心に家庭、地域が一体となった牛乳パックや古紙のリサイクル活動を行う。開始した2013年当初は、環境委員会が牛乳パックのみをリサイクルしていたが、より持続可能な活動につなげるために、並行して古紙回収も行うようになった。毎月1回「紙の日」を設定し、今では、住民や地域団体からも古紙が届けられるなど協力体制が整う。回収業者は、社会福祉法人「ごきげんらいぶ」に依頼、リサイクル運動が障がい者の雇用にもつながる取り組みに育っている。また、独自のアイデアとして注目を集めるのが、リサイクルすると校内環境通貨「くすのきチケット」が発行され、同校で開催する「エコマーケット」で買える物できる仕組みを設けたこと。楽しみながらリサイクル活動に参加できるとあって、毎年約900個ものトイレットペーパーを交換する取り組みに発展。活動の中で、児童は、牛乳パックの洗い方を工夫して水資源を大事に扱うなど、環境保護の意識も向上している。</p>
協会会長賞	<p>鹿児島県 <small>ちやばな</small> 与論町立茶花小学校</p> <p>与論島の最大の資源である「海」を教育の柱に据える同校。「海洋教育科『ゆんぬ学』」を設置し、専門家による授業や、調べ学習などを通じて、島が抱える環境課題の解決に向けて児童が主体的に取り組んでいる。「3月に行われるヨロンマラソンを盛り上げたい」「観光客に与論町をもっと好きになってほしい」という児童の思いから始まったのは、海岸清掃活動。学年別に体系的・探究的に学びを深める過程で、視野の広い責任感が生まれ、町内一斉</p>

2-15-16 Shibaura, Minato-ku, Tokyo 108-0023 Japan TEL:03-5439-5121 FAX:03-5476-2883 MAIL:bika@kankyobika.co.jp

公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町K・Sビル6階 TEL03-5439-5121 bika@kankyobika.co.jp





公益社団法人食品容器環境美化協会（略称・食環協）

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

清掃や与論島クリーン大作戦など地域活動にも参加するようになった。住民との交流が深まり、海ごみの回収箱を協働で制作し、複数の場所に設置している。目の前の海は世界とつながっていることを体感している児童は、まずは与論の海を守るために広報活動を展開。日々行っている環境活動を発信したり、手づくりパンフレットを空港などに置いたりしながら、今自分たちができていることに注力、その独創性や積極性が高く評価されている。

■その他受賞校:

<優秀校> 6校

北海道	<small>ふるびら</small> 古平町立古平中学校	新潟県	<small>せいろう</small> <small>かめしろ</small> 聖籠町立亀代小学校
石川県	<small>おぎ</small> 能登町立小木小学校	徳島県	<small>よしの</small> 阿波市立吉野中学校
愛媛県	<small>ひうら</small> 松山市立日浦中学校	長崎県	<small>とよ</small> 対馬市立豊小学校

<優良校> 19校

岩手県	<small>しずくいし</small> <small>しずくいし</small> 雫石町立雫石中学校	山形県	<small>たかはた</small> <small>ぬかのめ</small> 高畠町立糠野目小学校
福島県	<small>いいざか</small> 福島市立飯坂小学校	茨城県	<small>しろさと</small> <small>いしつか</small> 城里町立石塚小学校
群馬県	<small>とね</small> 沼田市立利根小学校	東京都	<small>にし</small> あきる野市立西中学校
富山県	<small>かまがふち</small> 立山町立釜ヶ淵小学校	山梨県	<small>あしがわ</small> 笛吹市立芦川小学校
静岡県	<small>みやこだ</small> 浜松市立都田小学校	愛知県	<small>こさか</small> 名古屋市立小坂小学校
滋賀県	<small>おうさか</small> 大津市立逢坂小学校	大阪府	<small>ねやがわ</small> <small>だいしち</small> 寝屋川市第七中学校区
兵庫県	<small>にしわき</small> <small>にしわき</small> 西脇市立西脇中学校	和歌山県	<small>おおとう</small> 田辺市立大塔中学校
香川県	<small>みとよ</small> <small>たくま</small> 三豊市立詫間中学校	高知県	<small>すさき</small> <small>あそう</small> 須崎市立吾桑小学校
佐賀県	<small>おおやま</small> 有田町立大山小学校	大分県	<small>たけた</small> <small>たけた</small> 竹田市立竹田中学校
宮崎県	<small>みかわうち</small> 延岡市立三川内中学校		

■表彰授与

●最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

2023年1月27日（金）15:30～17:10（受付 14:00～）

浅草ビューホテル 3階「祥雲の間」

東京都台東区西浅草3-17-1 電話 03-3847-1111

<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> *つくばエクスプレス「浅草駅」直結

懇談会 17:30～19:00 28階「ベルヴェデーレ」

●優秀校ならびに優良校については、後日、各都道府県において表彰状等を伝達します。





公益社団法人食品容器環境美化協会（略称・食環協）

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

環境美化教育優良校等表彰事業の概要

- 主 催：公益社団法人 食品容器環境美化協会
- 後 援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小・中学生の団体（以下「小・中学校」）
- 表 彰：

最優秀校	文部科学大臣賞	1校
最優秀校	農林水産大臣賞	1校
最優秀校	環境大臣賞	1校
最優秀校	協会会長賞	1校

 - ・賞状と副賞を贈呈
 - ・上記の他、「優秀校」、「優良校」に対し、協会会長賞として賞状と副賞を贈呈
- 推薦・審査：

都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小・中学校を審査委員会で審査
- 審査委員：

[審査委員長]	小澤 紀美子	東京学芸大学名誉教授
[審査委員]	鎌形 浩史	公益財団法人 日本環境協会 参与
	國分 重隆	全国小中学校環境教育研究会 顧問
		東京都教職員研修センター研修部教育開発課 教授
	小島 あずさ	一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表理事
	長塚 真行	公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 業務執行理事 企画広報部長
	中沢 宙也	公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員 株式会社伊藤園 総務部 総務課 担当課長
	増田 龍一	公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員 株式会社ヤクルト本社 広報室 CSR推進室 上席参与

(敬称略)





公益社団法人食品容器環境美化協会（略称・食環協）

The Beverage Industry Environment Beautification Association (Shokkankyo)

公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

- 1973年（昭和48年）任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足
- 1982年（昭和57年）社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）
体制整備を図り、事業活動を強化するため公益法人化。
- 2011年（平成23年）公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）
公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、「公益社団法人」として再発足。

- 主な活動：○新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動
- 小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、
教育者向け「環境美化 学習のガイド」の制作提供等の次世代への
環境教育支援 <https://www.kankyobika.or.jp/kids/>
- 市民団体等による環境美化活動への支援
- 「ポイ捨て防止」啓発活動
- 散乱ごみ対策の調査・研究 等

- 構成団体：一般社団法人 全国清涼飲料連合会 <http://www.j-sda.or.jp/>
清涼飲料メーカーなど企業会員 50 会員 85 社、組合会員 19 会員 152 社、
賛助会員 145 社からなる社団法人
- 一般社団法人 全国トマト工業会 <http://www.japan-tomato.or.jp/>
トマト加工製品メーカーなど 34 社からなる社団法人
- 一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>
果実飲料メーカーなど 119 会員からなる社団法人
- 日本コーヒー飲料協会
コーヒー飲料メーカーなど 19 会員からなる任意団体
- コカ・コーラ協会
日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体
- ビール酒造組合 <https://www.brewers.or.jp/>
アサヒ、麒麟、サッポロ、サントリー、オリオンのビール 5 社による特別認可法人

■本件に関するお問い合わせ先■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町 K.S ビル 6 階

TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883

ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp/>

2-15-16 Shibaura, Minato-ku, Tokyo 108-0023 Japan TEL:03-5439-5121 FAX:03-5476-2883 MAIL:bika@kankyobika.co.jp

公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町 K・S ビル 6 階 TEL03-5439-5121 ㊚ bika@kankyobika.co.jp



住民と取り組む地域の清掃活動が世界の人々の笑顔につながる

文部科学大臣賞 秋田県 大仙市立大曲南中学校

「大曲の花火」で有名な大仙市を流れる雄物川と横手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる環境の中、20年以上にわたり地域に根差した活動を行っている。中でも活発なのが、保護者で行うアルミ缶・古紙回収だ。生徒が前もって告知のチラシを作り各戸に配布、回収当日は、高齢者宅に出向き回収を手伝う。また、道路周辺の清掃活動も盛んで、校区の2つの小学校と合同で実施。生徒は、事前に母校の小学校を訪れ、当日の段取りなどを説明、終始旗振り役に徹する。

その様子を見守る住民も、協力を惜しまない。地域憩いの場の川港親水公園では、生徒と協力して清掃をした後、アユの塩焼きをふるまいながら交流の機会を設けている。

これらの美化活動がベースとなり、ユネスコスクールに認定された2010年以降は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに、活動を深化させている。食育では、給食残さで作った肥料を使い、住民らの指導で野菜栽培や収穫野菜の省エネクッキングに挑戦。地域の主産業が農業であることを再認識した生徒は、近隣スーパーに出向き、食品ロス防止状況について聞き取りを開始した。

さらに、環境問題を扱った講演会を開催、世界を舞台に活躍する講師が現状を報告。その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉えるようになった。

こうした一連の活動は教育課程に位置付けられ、総合的な学習の時間を中心に実施。各教科とのつながりを示した「ESD カレンダー」は、重要なツールになっている。住民の佐藤友美さんは、「さまざまな経験を重ね、世界を知る講師の話聞いて、いろんな角度から物事を見ることができています。地域を大いに巻き込んで欲しい」と期待する。

本年度は、気候変動下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を開催。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感。身近な川を清掃することで海がきれいになり、キリバスの幸せにもつながることを強く意識するようになった。“Think Globally, Act Locally”の精神がしっかりと胸に刻まれている。



秋田県大仙市立大曲南（おおまがりみなみ）中学校

学校長：島田 智（しまだ さとる）
 生徒数：72名(2022年11月末現在)
 住所：秋田県大仙市藤木字上野中70番地2
 電話：0187-65-2001
 アクセス：JR「大曲駅」から車で約15分

上：20年以上続くアルミ缶・古紙回収、2左：住民と取り組む川港親水公園の清掃活動、2右：住民がふるまってくれた魚の塩焼きで交流会、3左：自分たちで収穫した野菜で省エネクッキング、3右：食品ロスについてスーパーで聞き取り調査、下：キリバスの現状に触れる



漁業・農業体験を通じ海の環境づくりに励む村で唯一の中学校

農林水産大臣賞 青森県 蓬田村立蓬田中学校

陸奥湾に面した津軽半島に位置し、海と山に囲まれた自然豊かなロケーションが魅力の同校では、その環境や地場産業を生かした活動を行っている。もともと地域の美化意識が高く、住民達が村の名所である玉松海水浴場や玉松台の清掃活動を長年続けてきた。しかし高齢化が進み継続が危ぶまれる中、同校に協力依頼したのを機に2008年以降は、生徒といっしょに取り組む。毎年、海開きの前に開催し、全校生徒と老人クラブ、蓬田村漁協、婦人会、蓬田小学校など、総勢約150人が参加する村の一大行事だ。2班に分かれて、清掃場所の玉松海水浴場と玉松台の2か所を、交流しながら作業する。

海岸清掃では、活動時間内に終わらないほど漂着ごみの量が多く、住民からは中学生の参加を歓迎、頼りにする声がかかる。一方の玉松台は、歴史的な価値が高く、村民の拠り所として地域に大切に守られてきた場所でもある。生徒は玉松台の歴史を住民から学んだ後に清掃することで、村民の一員としての自覚を持つようになった。

住民との連携が深まる中、2014年からは地域の基幹産業である漁業の体験学習を実施。漁協の協力の下、漁船で沖合に向かい、養殖ホタテの水揚げ体験を行った後、ホタテの選別法や生態を学び、刺身やバター焼きなどの調理に挑戦する。漁業が盛んな地域だが、漁船に乗ったことも港に行ったこともない生徒がほとんどだ。こうした体験を通じて、漁業という職業が身近にあることを実感。同時に、ホタテの養殖には海の環境づくりが大事であると再認識した。

また、蓬田村では農業も盛んで、トマトの産地として名高い。トマト栽培農家の協力により農作業体験する過程で、良い土と水が欠かせないことを学んだ生徒は、地域の美化活動が村の支えや活性化につながることを体感。蓬田村連合老人クラブ会長の小鹿秀敏さんは、「生徒が清掃する姿を見て、協力してくれる住民がどんどん増えています。これからも、蓬田の夢を託していきたい」と見守る。

同校は村で唯一の中学校で、生徒一人一人に寄せる住民の思いは熱い。この声に応えようと、生徒は地域の財産を守り抜くという強い決意で挑む。



青森県 蓬田村立蓬田（よもぎた）中学校

学校長：秋村 秀樹（あきむら ひでき）

生徒数：59名（2022年11月末現在）

住所：青森県東津軽郡蓬田村大字郷沢字浜田138

電話：0174-27-2038

アクセス：JR「郷沢駅」より徒歩数分

上：玉松海水浴場の漂着ごみを回収、2左：村民の拠り所である玉松台の歴史を教わりながら清掃に励む、2右：住民と協力して進める美化活動、3左：漁船に乗って養殖ホタテの水揚げ体験、3右：養殖カゴからホタテを取り出す
下：村の特産品で有名なトマト栽培・収穫体験



牛乳パックのリサイクルから命のつながりへと広がる循環の輪

環境大臣賞 埼玉県 川口市立安行小学校

植木の里として知られ、花と緑が絶えることのない街、安行。周囲を樹木に囲まれた環境の下、同校では地域とともに独自のリサイクルに取り組む。2013年に始めたのが、給食の牛乳パックを環境委員会が回収して古紙回収業者に引き渡し、トイレトペーパーに交換する活動だ。その後、資源の有効活用に着目し、古紙回収も実施。月1回「紙の日」を設けて、地域にも協力を依頼、回収日には大量の古紙が方々から集まる。2015年からは、川口市の団体が取り組む資源リサイクルと障がい者の仕事づくりをつなぐ「グリーンサポート運動」にいち早く参加。同校近くの社会福祉法人「ごきげんらいぶ」に入所するメンバーが、児童から直接牛乳パックや古紙を受け取り、トイレトペーパーを手渡す活動に発展。量が増えるとかさばる牛乳パックを、障がい者の人たちが持ち運びしやすいよう、牛乳パック専用の回収箱を手づくり、ヒモ等で圧縮している。

リサイクルが福祉活動へと広がりを見せる中、もっと楽しく取り組めるようにと始めたのが、校内環境通貨「くすのきチケット」。牛乳パックを開いて洗って乾かしたものを回収箱に入れると、チケットがもらえるしくみだ。回収箱に丁寧に並べることができたらボーナスチケットが出るなどエコ活動のアイデアが満載で、集めたチケットは、安行小まつりの「エコマーケット」で使える。

こうしたリサイクル活動は、自然の中の大きな循環のひとつに位置付けられ、古紙以外にも、給食の果物の皮を集めてコンポストに入れる土づくり、絶滅危惧種のアカガエルの飼育や保護、ヤギやホタル、カイコなど飼育を通じた命のつながりを体験している。指導に当たるのは住民や地域団体で、飼育法を教わりながら育てたオタマジャクシやカイコなどは、児童がエコマーケットで販売。

住民の牧野真知子さんは、「ここで学んだ子どもたちが、いつの日かファシリテーターとして活躍すれば、世の中が変わるかなと期待しています」とほほえむ。

—安行はひとつ—このあたりで言い伝えられてきた言葉だ。そんな地域愛に包まれながら、児童は自分たちの取り組みを内外に発信、やり遂げる達成感をかみしめている。



埼玉県 川口市立安行（あんぎょう）小学校

学校長：春川 嘉孝（はるかかわ よしたか）

児童数：912名(2022年11月末現在)

住所：埼玉県川口市安行原 2020

電話：048-295-1803

アクセス：埼玉高速鉄道「戸塚安行駅」から車で約 10 分

上：社会福祉法人「ごきげんらいぶ」からリサイクルされたトイレトペーパーを受け取る児童、2 左：牛乳パックを丁寧にヒモで結び持ち運びしやすい工夫、2 右：校内環境通貨「くすのきチケット」、3 左：絶滅危惧種のアカガエルの飼育、3 右：学校で飼っているヤギ、下：果物の皮をコンポストに入れて土づくりに励む



ヨロンプルーの海と珊瑚を守るためアイデア光る美化活動を発信

協会会長賞 鹿児島県 与論町立茶花小学校

鹿児島県の最南端に位置する珊瑚礁に囲まれた与論島。ヨロンプルーともいわれる日本屈指の透明度を誇る海には、色とりどりの熱帯魚が生息する。しかし、近年、海岸の漂着ごみが深刻化。砂浜の清掃を行う住民が、回収した海ごみを入れる専用の木箱を海岸沿いに設置し、「拾い箱」と名付けた。その活動を児童に紹介したところ、拾い箱をカラフルにペイントし、イラストを描こうと、児童から次々アイデアが生まれ、住民との協働制作につながった。さらに、拾い箱に海ごみを入れて協力してくれた人に、感謝の気持ちを伝えるため、児童が拾い箱のフタにちょっとしたサプライズを仕掛けると、その工夫に感動した観光客から手紙が届くなど大きな反響があった。

手ごたえをつかんだ児童は、「もっと与論島を好きになって欲しい」との思いが高まり、積極的に町や海岸の清掃を行うようになった。そして、これらの活動を発信しようと、イラストや写真を盛り込んだパンフレットを作成し、空港や港などに設置。同時に、島の一大イベント「ヨロンマラソン」のウェルカムパーティーで、日頃の取り組みを発表しながら大々的にPRしている。

こうした一連の取り組みは、同校独自の「海洋教育科『ゆんぬ学』（島の言葉で与論学）」で実施、総合的な学習の時間を中心に、教科横断的に学びを広げている。海を守るのは自分たちだという責任感が芽生えた児童は、漁協の協力によりサンゴの移植活動を始めた。

与論町漁協の参事、箕作（きさく）広光さんは、「自分たちの植えたサンゴが大きく育っているのを実際目にする、子どもたちの目がきらきら輝きます。サンゴの減少という課題解決につながると期待しています」と目を細める。

与論島には「島だちの教育」という言葉がある。島だちの「だち」には3つの意味が込められ、ひとつは島を離れる（発つ）までに、基礎学力や生活習慣を身に着けること。2つ目は、将来与論島に戻ってきた子どもたちが島を興す（建てる）。最後は、他の島に行ってもその地で自立すること。ゆんぬ学を通じて力強く生きるための礎を築いた子どもたちは、島だちを迎える準備が着々と整っている。



鹿児島県 与論町立茶花（ちゃばな）小学校

学校長：段原 修司（だんばら しゅうじ）
 児童数：146名（2022年11月末現在）
 住所：鹿児島県大島郡与論町茶花298
 電話：0997-97-2031
 アクセス：与論空港から車で約10分

上：ヨロンプルーの海を守り続ける児童、2左：拾い箱をカラフルにペイントして観光客にPR、2右：拾い箱のフタに海ごみを回収してくれた人に感謝を伝える仕掛け、3左：サンゴの移植活動、3右：観光客に島の環境や美化活動をアピールするパンフレット、下：ヨロンマラソンのウェルカムパーティーで環境保全を訴える

